

# 国立特別支援教育総合研究所

## 研究企画部

### 業務説明

# 研究企画部の主な業務

## ○特総研（NISE）の研究に係る総合的な企画立案 及び調整に関すること

- ・実施中の研究推進に関わる支援
- ・次年度以降の研究に関わる文部科学省特別支援教育課との調整及び立案 等

## ○関係機関との連携に関すること

- ・近隣の自治体の教育委員会との連携の推進
- ・大学、企業との連携の推進 等

## ○研究活動の評価に関すること

- ・内部評価及び外部評価の実施
- ・ニーズ調査、活用度調査の実施と、意見の受理

# 第5期中期目標期間（令和3年度～7年度） における研究の方向性

## 基本方針及び研究体系

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献することをミッションとする。

インクルーシブ教育システムの構築、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に寄与するため、国、地方公共団体、大学、研究機関、学校等関係機関との連携を強化するとともに、研究所の役割をさらに明確にし、国の政策課題や教育現場の喫緊の課題等に対応した研究活動を実施する。

## 第5期中期目標期間における研究体系

研究区分	研究の性格(研究期間)
重点課題研究	障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究(2～3年間)。
障害種別特定研究	各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究(原則2年間)。
その他	<p><b>基礎的研究活動</b>: テーマ別研究班及び障害種別研究班における基盤的な研究。年次基礎調査や、指導の充実等に寄与する調査・分析、それらの結果の普及等の基礎的・継続的な研究活動。</p> <p><b>先端的・先導的研究</b>: 将来的な教育政策の検討資料や教育実践の選択肢を提示することを目標に行う研究(1～3年間)。</p> <p><b>国の要請等に応じた研究</b>: 国の政策立案等に貢献することを目的とした研究。</p> <p><b>共同研究</b>: 本研究所が大学や民間などの研究機関等を共同で行う研究。</p> <p><b>外部資金研究</b>: 科学研究費助成金等の外部資金を獲得して行う研究。</p> <p><b>受託研究</b>: 外部からの委託を受けて行う研究。</p>

- 第4期中期目標期間の研究区分を見直し、各障害種の枠を超えて組織的に取り組む「重点課題研究」を中心に、多様な研究を実施。
- 障害種別研究班とともに、新たにテーマ別研究班を設置し基盤的な活動を充実。
- 研究を戦略的かつ効果的に推進するため、研究課題に応じて外部の研究協力者や研究協力機関との連携を進める。

## 第5期中期目標期間に取り組む研究活動

### 重点課題研究

<令和3年度より開始している研究>

(1) 教育課程に関する研究(国への政策貢献)

- 学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究  
(教育課程チーム)

(2) 切れ目ない支援の充実にに関する研究(教育現場等の喫緊の課題に対応)

- 障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究(就学チーム)
- 高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究(進路指導チーム)
- ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究(ICTチーム)
- 通常の学級における多様な教育的ニーズのある児童生徒の教科指導上の配慮に関する研究(教科指導チーム)

### 障害種別特定研究

<令和3年度より開始している研究>

- 知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究(学習評価チーム)

## 第5期中期目標期間に取り組む〈基礎的〉研究活動

### テーマ別研究

社会的背景等から必要なテーマ別研究班を設置し、関係団体との連携を図りながら基礎的研究活動を行い、その成果を重点課題研究や国の政策立案等に生かしていく。

- ①ICT班 : 特別支援教育におけるICT、教材・教具の活用に関する研究班
- ②キャリア班 : 障害のある児童生徒のキャリア教育及び就労支援に関する研究班
- ③幼児班 : 乳幼児期の特別支援教育に関する研究班
- ④外国人等班 : 外国につながるのある子供の特別支援教育に関する研究班

### 障害種別研究

障害種別の研究班においては「障害種別特定研究」のほか、「基礎的研究活動」（各教育分野の指導の充実等に寄与する資料の収集や調査・分析、各教育分野の実態等を定期的に把握・分析することを目的とした年次基礎調査、それらの結果の普及等、当該障害種に係る基礎的・継続的な研究活動）を行うこととする。

- ①視覚班、②聴覚班、③知的班、④肢体不自由班、⑤病弱班、⑥言語班、⑦自閉症班、⑧発達・情緒班、⑨重複班

## 研究成果の還元

研究成果は、事例集やリーフレット等としてウェブサイトに掲載しており、ダウンロードして活用ができます。また、メールマガジンでの発信や研修事業、研究所セミナーでも普及を図っています。



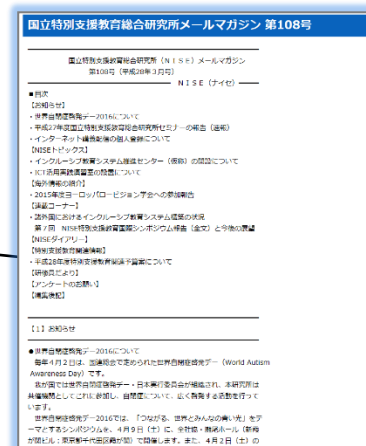
研究成果報告書



事例集



リーフレット



メールマガジン



刊行物(市販)



研修事業(一昨年の様子)



研究所セミナー(一昨年の様子)

研究成果についてはこちらから御覧いただけます

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications)

# 障害種別研究班の最近のリーフレット



視覚障害教育



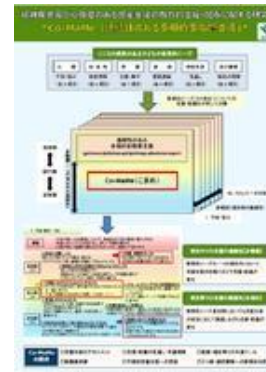
聴覚障害教育



肢体不自由教育



知的障害教育  
(近日発行予定)



病弱・身体虚弱教育



自閉症教育



発達障害・  
情緒障害教育



言語障害教育



重複障害教育



インクルーシブ  
教育システム



教育課程に  
関する研究

研究成果についてはこちらから御覧いただけます  
[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications)



国立特別支援教育総合研究所

# 研修事業説明



# 研修事業

## (1) 国の政策課題や教育現場のニーズ等に対応できる指導者の専門性の向上

- ・ 各都道府県等における障害種ごとの教育の中核となる教職員を対象とした専門的・技術的な研修及び各都道府県等における指導的立場にある教職員を対象とした特別支援教育政策上や教育現場等の喫緊の課題等に対応した専門的・技術的な研修を実施する。
- ・ 研修目的に留意しつつ、宿泊及びオンラインを適切に組み合わせ、講義のほか、研究所の研究の成果を踏まえた演習・研究協議、フィールドワーク等の形式を多く取り入れるなど工夫し、学術的な理論に裏打ちされた実践的かつ効果的な研修を実施すること。

## (2) 各都道府県等が実施する教員の資質向上に関わる支援

- ・ 多様な学びの場に対応した講義配信コンテンツの計画的な整備を図り、インターネットにより学校教育関係者等へ配信すること。
- ・ 特別支援学校教諭免許状取得率向上のために免許法認定通信教育及び免許法認定講習を実施するとともに、大学等が開設する講習への協力、受講者が受講しやすくなる環境・方策及び科目・単位の拡充の可能性について検討すること。
- ・ 大学等と連携して、教員養成段階の学生等を対象とした特別支援教育に関する専門的な講習を実施すること。

# NISE 研修体系

		目的	対象	形態	名称・内容
教員のキャリアステージ	第3ステージ 広い視野で組織的な運営	指導者の養成	第2ステージ及び第3ステージの教職員	来所若しくはオンライン、又は来所とオンラインを組み合わせる研修	特別支援教育専門研修 障害種別のコース・プログラムで実施 (視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害、発達障害、情緒障害、言語障害)
	インクルーシブ教育システムの充実に関する指導者研究協議会・セミナー				特別支援教育施策上や教育現場等の喫緊の課題について実施 ・特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会 ・高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会 ・交流及び共同学習推進指導者研究協議会 ・発達障害教育実践セミナー
	連携研修				・特別支援学校寄宿舎指導実践協議会 (全国特別支援学校長会と連携)
	その他の研修				・難聴児の切れ目ない支援体制構築研究協議会
教員養成大学	第1ステージ 実践力を磨き教職の基礎固め	資質向上のための支援	第1ステージから第3ステージの教職員	インターネットを活用した研修	講義配信 特別支援教育に関する基礎知識、各障害種の概論、指導方法等に関する講義を配信 ・個人研修支援(スタディー・ログの充実) ・研修プログラムの提供 ・団体登録による自治体や学校の研修を支援 (プログラムの作成、視聴証明書の発行等) ・小・中学校等の教員支援の強化

➤ **スクールリーダー**：中核的中堅教員として、将来管理職となる者も含め、学校単位や地域単位の教員組織・集団の中で、中核的・指導的な役割を果たすことが期待される教員



インターネットによる講義配信

**NISE** 学びラボ

～ 特別支援教育eラーニング ～

- ◆ 個人登録
- ◆ 団体登録

各都道府県教育委員会、教育センター、学校等での活用

159コンテンツ(令和3年7月1日現在)

- ① 特別支援教育全般
- ② 障害種別の専門性
- ③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

8月25日(水)15時  
～16時にオンライン  
説明会を行います。  
ぜひのぞいて  
みてください



## 令和3年度免許法認定通信教育



前期 視覚障害児の教育課程及び指導法  
聴覚障害児の教育課程及び指導法

後期 視覚障害児の教育課程及び指導法  
聴覚障害児の教育課程及び指導法

試験: 令和3年9月11日(土)

試験: 令和4年2月6日(日)

## 令和4年度免許法認定通信教育開講予定

視覚障害児の心理、生理及び病理  
聴覚障害児の心理、生理及び病理

**NISEの研修、ぜひ、ご活用ください!**

# 国立特別支援教育総合研究所

情報・支援部

事業説明

# 情報・支援部

特別支援教育に関する情報の収集・蓄積・提供や理解啓発活動

園・学校長会や  
関係団体等との連携協力

NISEが主催するセミナー  
の企画立案及び実施

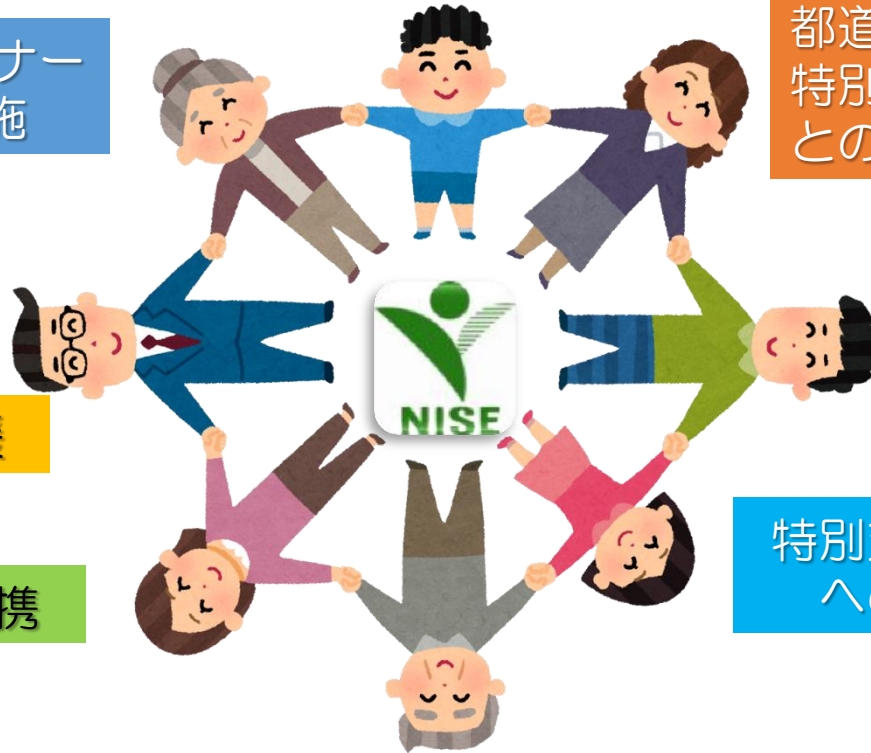
都道府県等の教育センター  
特別支援教育センター等  
との連携協力

日本人学校等への支援

保護者団体等との連携

特別支援学校や各種学校等  
への支援及び連携協力

教材及び教育支援機器に関する  
情報・資料の収集・提供・関係者の支援



# 令和3年度 特別支援教育推進セミナー

## 目的

地域における特別支援教育の理解啓発を図るため、教育委員会、特別支援教育センター（教育センターに特別支援教育を担当する部署がある場合を含む）（以下、特別支援教育センター等という）、関係団体等及び大学と連携を図りながら、各種セミナーや研修会、支援機器等教材に関する展示会等を戦略的、計画的に実施する。全国を7ブロックに分け、中期計画期間中に各ブロックの実情に応じた開催を計画し毎年度3回（中期計画期間中に15回）程度開催する。



## 全特協副会長会調査より

- ・ブロック内で教職員等を対象とした研修を実施していない。
- ・北海道、関東、近畿、四国では、ブロックで定期的に情報交換している。
- ・北海道、東北、関東、東海、九州で地区研究協議会を開催している。
- ・北海道、東北、近畿、九州で特別支援教育セミナー（仮）を希望している。
- ・開催に向けて通信環境、ブロック内の連携、担当県外の受入、費用等の課題があげられている。
- ・既存の大会との共催、実践事例の紹介、対面での研修等の希望がある。

## 令和3年度開催ブロックの概要

### 山形県（北海道・東北ブロック）

- ・令和3年12月21日（火）開催
- ・開催場所：山形県教育センター
- ・山形県内対面、ブロック内：オンライン

### 広島大学（中国ブロック）

- ・令和3年12月27日（月）開催
- ・開催場所：広島大学
- ・広島県内対面、中国ブロック：オンライン

### 宮崎（九州ブロック）

- ・令和3年11月26日（金）開催
- ・開催場所：宮崎県教育研修センター
- ・宮崎県内対面、九州ブロック：オンライン

- ・次回開催地から担当者の参加を促す。
- ・今後、各地に開催に向けて内諾を得る。
- ・各地のセミナーの希望内容についても検討する。

北海道・東北

中国

近畿

東海・北陸

関東・甲信越

九州

四国

# 特別支援教育推進セミナーの目的

---

地域における特別支援教育の理解啓発を**推進・充実**を図るため、教育委員会、特別支援教育センター（教育センターに特別支援教育を担当する部署がある場合を含む、以下、「特別支援教育センター等」という）、関係団体等及び大学と連携を図りながら、各種セミナーや研修会、支援機器等教材に関する展示会等を戦略的、計画的に実施する。全国を7ブロックに分け、中期計画期間中に各ブロックの実情に応じた開催を計画し**毎年度3回**（中期計画期間中に15回）程度開催する。

## ○ 対象

特別支援教育関係者をはじめ、通常の学級の教員、保護者を含む各地の皆様

## ○ 開催方法について

対面型・オンライン・オンデマンド・併用型

## ○ 会場について

開催県の教育センター・学校・研究所・各地のホール など



# ○ 特総研コンテンツについて

## ブロック・県・地域のニーズに応じたコンテンツの選択

研修コンテンツ	内 容 例
特別支援教育に関する概論等	発達障害の理解啓発、発達障害に係る支援人材の専門性、インクルーシブ教育システム構築に関する基本的事項講演、特別支援教育に係るICT機器の活用、各種障害について等
研究所及び研究成果の紹介	研究成果、「学びラボ」の研修コンテンツ、インクルDB、インクルCOMPASS使用に関する紹介 等
特別支援教育に関する今日的課題	行政説明、パネルディスカッション 等
各地における先進的教育実践の報告	地域実践研究の成果、ICT及び支援機器の活用事例
体験型研修	ICT及び支援機器の活用について紹介、教材・支援機器の紹介動画）、疑似体験、教材作成、教材活用体験（情・発）



# 情報・支援部の業務～情報発信の充実～

## ○ホームページの充実

- ✓トップページにスライダー機能を搭載
- ✓利用者が素早く目的の情報を取得できるように、  
カテゴリー別にメニューボタンを配置予定



## ○経験の浅い教員向けリーフレットの作成

幼稚園稚園等、小・中学校、高等学校等で特別支援教育の指導の経験のない又は経験年数の少ない教員に対する特別支援教育の理解啓発・普及を目的としたリーフレットを新たに作成し情報発信の充実を図る。

## ○ICT機器による合理的配慮を体験できる「あしたの教室」を設置

1人1台のタブレット端末をはじめとするICT機器を活用した指導方法や、教室における合理的配慮の可能性を体験的に学ぶことができる「あしたの教室」を設置。

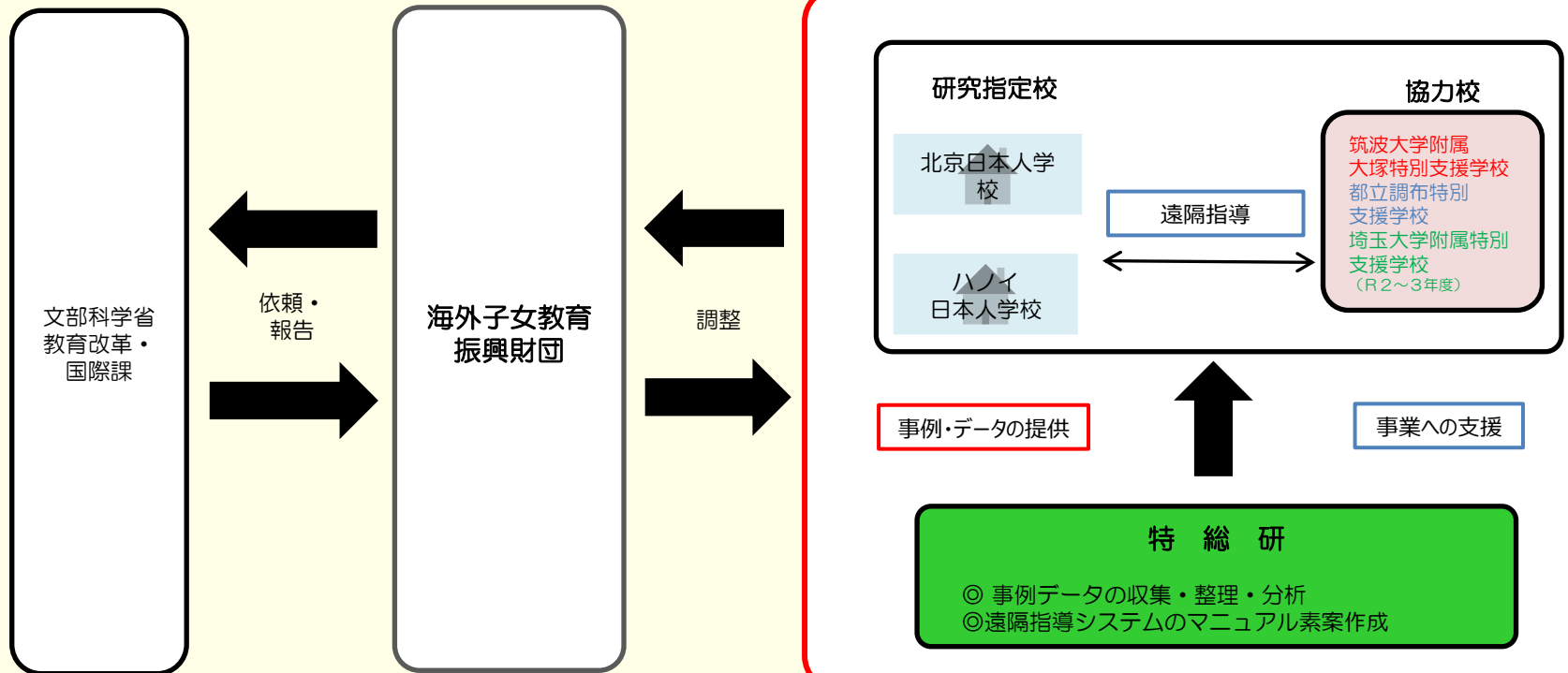
## ○特別支援学校寄宿舎指導実践協議会（令和3年7月21日に開催）

特別支援学校寄宿舎における幼児児童生徒の生活指導等に関して、各都道府県等の寄宿舎指導員による実践発表、情報交換等を行い、寄宿舎における指導の充実を図る。

# 情報・支援部の業務～日本人学校への相談支援～

- 日本人学校に対して、特別支援教育に関する情報提供を定期的実施。
- 日本人学校を通じた相談支援。

## 文部科学省と連携し、日本人学校への遠隔指導に関する取組



# イベント紹介

※中止又は開催形態が変更となる可能性があります。

## 研究所公開

日程 令和3年 秋～冬（予定）  
場所 国立特別支援教育総合研究所  
（神奈川県横須賀市）



研究所を身近に感じていただける体験型のイベントです。

## 国立特別支援教育総合研究所セミナー

日程 令和4年2月4日（金）、5日（土）  
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）



研究所の活動や研究成果を報告します。

## 特別支援教育推進セミナー

令和3年11月26日（金） 宮崎県：九州ブロック  
開催地：宮崎県教育研修センター  
令和3年12月21日（火） 山形県：北海道・東北ブロック  
開催地：山形県教育センター  
令和3年12月27日（月） 広島県：中国ブロック  
開催地：広島大学

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所



発達障害教育推進センター

業務説明

# 第5期 中期目標・年度計画

## 【中期目標】

発達障害教育に関し、インターネットを通じた情報提供の充実を図り、幼稚園、小・中・高等学校等の教員や保護者への理解促進を図るとともに、教育と福祉等の関係機関との連携に関する取組を推進すること

## 【指標】

発達障害教育推進センターのウェブサイトについて、年間10万件以上の訪問者を確保する

## 【中期計画】

国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターと連携し、全てのライフステージにおいて切れ目のない支援が行われるよう情報提供の充実を図る。

福祉等の関係機関との連携を通して、地域における人材育成と支援体制構築の促進を図る。

# 2021年度の主な取組

発達障害に関する理解啓発と支援の充実の促進に関すること

## <事業・プロジェクト>

- ・家庭と教育と福祉の連携「トライアングルプロジェクト」事業
- ・教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト
- ・発達障害教育実践セミナーの開催
- ・文部科学省、厚生労働省、保護者団体等との連携事業の開催

## <理解啓発・情報普及>

- ・Webサイトによる情報提供
- ・発達障害教育推進センター展示室の整備・公開
- ・特別支援教育推進セミナーの実施（研究所事業）

## <関係機関との連携・支援の充実>

- ・厚生労働省、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターとの連携
- ・教育関係機関、医療・福祉等関係機関等との連携

# Webサイトによる情報提供



## 主なコンテンツ

- ① 発達障害の理解
- ② 指導・支援
- ③ 研修講義動画
- ④ 発達障害Q&A
- ⑤ 発達障害に関する研究
- ⑥ 国の動向や法令等
- ⑦ イベントや研修会の情報

研修講義の一部はYouTubeでも視聴可



# 発達障害教育推進センター展示室

発達障害に関する理解の促進、適切な対応や支援の充実を目的として、ライフステージに応じた教材・教具や支援ツールの展示、パネル展示や参考図書・映画の紹介、体験的な理解ができるコーナーなどを常設



# 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト 報告～障害のある子と家族をもっと元気に～

## 1. 教育と福祉との連携を推進するための方策

- (1) 教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所等との関係構築の「場」の設置
- (2) 学校の教職員等への障害のある子供に係る福祉制度の周知
- (3) 学校と障害児通所支援事業所等との連携の強化
- (4) 個別の支援計画の活用促進

## 2. 保護者支援を推進するための方策

- (1) 保護者支援のため相談窓口の整理
- (2) 保護者支援のための情報提供の推進
- (3) 保護者同士の交流の場等の促進
- (4) 専門家による保護者への相談支援

## 3. 国立特別支援教育総合研究所と

## 国立障害者リハビリテーションセンターの連携促進

## 4. 障害の理解促進のための普及啓発



# 発達障害に係る教育と福祉の支援人材の専門性の検討

## 背景

障害のある子供たちへの支援にあたっては、行政分野を超えた連携が不可欠であり、

**「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」報告**において、以下の課題が挙げられた。

- ◎教育や福祉の分野において発達障害者支援にあたる人材が身に着けるべき専門性を整理し、各自治体の指導的立場となる者に対する研修の在り方等、教育や福祉の現場にその成果を普及させる方策を検討すること
- ◎ 国立特別支援教育総合研究所と国立障害者リハビリテーションセンター双方のHPについて、教育分野における支援、福祉分野における支援に係る情報を保護者等が活用しやすいように工夫すること

## 概要

### ○発達障害に係る教育と福祉の支援者の専門性の在り方に関する検討会議の設置



検討会議（有識者、教員、医療、保健、労働、福祉関係者、保護者代表）  
事務局（特総研、国リハ、文部科学省、厚生労働省）

#### 検討事項

- ・教育と福祉の連携・協働の課題の把握
- ・発達障害支援の専門性の整理
- ・連携・協働の専門性に関する研修の在り方の検討

文科省



特総研

厚労省



国リハ

連携

## 成果

発達障害に係る教育と福祉の支援人材の専門性と研修の在り方の検討（報告書）のまとめ

- ・発達障害の支援人材の教育と福祉等の分野における基本となる専門性を整理
- ・**「連携・協働」に関する研修カリキュラム、研修実施ガイドの作成**

# 発達障害支援に係る教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト

NISE

## 背景・説明

発達障害を含む障害のある児童生徒に対する支援は、全ての学校・学級に求められており、特別支援教育に係る教員の専門性の向上が課題となっている。

また、障害のある児童生徒への支援にあっては、行政分野を超えた連携が不可欠である。（※H30.3「家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト」報告）

## 目的・目標

■ 教育と福祉の支援者が「連携・協働」するための課題の整理と検討を行い、地方自治体における連携体制の構築を促進する。

■ 令和2年度に提案予定の研修のモデルプランや『教育と福祉の支援者が「連携・協働」するための研修コアカリキュラム』を活用し、連携・協働のできる人材の育成を図る。

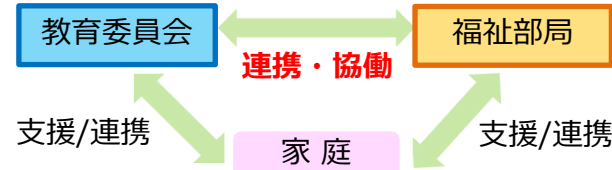
## 取組内容

### 国立特別支援教育総合研究所

- 教育と福祉の支援者が「連携・協働」するための課題の整理と検討
  - 現状と課題の把握のための全国調査等
  - 協議会・セミナー（地区ごとにweb開催）
- 有識者と自治体関係者による研究協議会
- 連携体制構築のための教育実践セミナーの開催
- webサイトによるコンテンツの作成

### 地方自治体（協力地域8箇所程度）

- 検討会議等の開催（教育と福祉の連携体制構築）
- 研修コアカリキュラム、モデルプランを活用した教育と福祉の合同研修の在り方の検討と実践



協力・支援

教育と福祉の支援者が「連携・協働」するための『実施ガイド』の提案と自治体における研修の実践

成果、事業を実施して、期待される効果

教育と福祉が連携・協働した体系的な研修が実施されることにより、教員及び福祉支援の職員の専門性が向上し、児童生徒に対する支援の充実につながる。

# 発達障害教育実践セミナー

発達障害のある子どもの一貫した支援体制の構築を推進することを目的として、教員や教育委員会等の関係者に対し、最新情報の提供や実践事例の報告、研究協議等を行い、発達障害教育の理解推進と実践的な指導力の向上を図る。

昨年度は、オンラインで実施した。

テーマ：教育と福祉の関係者が連携・協働するための研修の在り方  
ー研修コアカリキュラムの活用ー

内容：実践報告、パネルディスカッションなど

対象：教育委員会・教育センター等の研修担当職員等

期日：2020年1月28日（木）

※ 96機関が参加



# 「生徒指導リーフ」



国立教育政策研究所と共同で、発達障害と生徒指導に関するリーフレット「生徒指導リーフ」を作成しました。HPに掲載するとともに、小学校、中学校及び高等学校と関係機関に配布しています。



# インクルーシブ教育システム推進センター について



トウインクルSUN

インクルーシブ教育システム推進センター  
イメージキャラクター

# インクルーシブ教育システム推進センター

## 第5期の業務（令和3年度～）

3. 特別支援教育に関する情報普及の充実や自治体・学校への支援
- (2)インクルーシブ教育システム構築の国際的動向の把握と海外の研究機関との研究交流の推進
- (3)自治体や学校が直面する課題の解決に関する支援や情報発信
- 【第5期中期計画】

主として、以下の業務を展開

- ・地域との連携による**地域支援事業（新規）**
- ・**国際**的動向の把握や研究交流
- ・**インクルD B**等の情報発信・相談支援



## 教育委員会と研究所が連携して 地域のインクルーシブ教育システム構築を 推進する事業です



### 具体的には・・・

- 研究所と日常的に連携して、インクルーシブ教育システム構築に関する課題の解決に向けた取組を推進します
- これまでの「地域実践研究」の研究成果を活用できます
- 他の地域と情報交換することができます
- 事業の成果を、研究所と協働して地域に普及することができます



### 事業内容の例

- 専門性のある指導体制の確保  
教育委員会主催の研修  
切れ目ない支援体制
- 交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムに関連した理解啓発  
通常の学級担任向けの校内研修プログラム  
障害理解授業  
リーフレット作成

# 地域支援事業（令和3年度新規）

## 令和3年度参加自治体（10道府県・13市町）

- ・札幌市（北海道）
- ・芽室町（北海道）
- ・釜石市（岩手県）
- ・鹿沼市（栃木県）
- ・相模原市（神奈川県）
- ・横須賀市（神奈川県）
- ・葉山町（神奈川県）
- ・須坂市（長野県）
- ・袋井市（静岡県）
- ・田原市（愛知県）
- ・箕面市（大阪府）
- ・神戸市（兵庫県）
- ・筑前町（福岡県）



## 令和3年度の実施計画

- ・4月1日 事業開始
- ・4月23日 事業説明会（リモート）
- ・8月26日 地域支援事業推進プログラム（リモート）
- ・3月18日 事業報告会（リモート）  
各自自治体での報告会等
- ・3月31日 事業終了

所外から  
アドバイザー  
2名依頼

- 諸外国のインクルーシブ教育システムの構築に係る最新動向や取組を計画的に収集し、ホームページ等で公表
  - アメリカ、イギリス、オーストラリア、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、韓国等
- 海外の研究機関等との国際交流
  - 韓国国立特殊教育院との協議会の開催  
国際セミナーへの派遣等
- 海外からの視察・見学の受け入れ
  - J I C A 研修プログラム等



- 特総研ジャーナル等で、「各国におけるインクルーシブ教育システムの動向」を紹介。
- 諸外国の動向調査において、所外（大学教員等）の特任研修員に協力いただいています。

「各国は、教育、なかでもインクルーシブ教育において、異なるスタート地点、異なる歴史を持つ。  
これに関して、すべての答えを持っている国は1つとしてないが、多くの国が、革新的で明確な好事例を有している。  
また、すべての国々が、今も、前に向かって進行中である。」

→ Cor J. W. Meijer氏(European Agency for Special Needs and Inclusive Education Director)の資料から

# インクルーシブ教育システム構築支援データベース 「インクルDB」

- 文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」で得られた「合理的配慮」の実践事例をデータベース化

- 平成26年7月運用開始

- 559事例を掲載

インクルDBのトップページには  
こちらから



## インクルDB (インクルーシブ教育システム構築支援データベース)

### ◎ インクルDBについて

本サイトには、大きく3つのコンテンツがあります。

『「合理的配慮」実践事例データベース』は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索するシステムです。『相談コーナー』では、都道府県・市区町村・学校からのインクルーシブ教育システム構築の相談を行っています。『関連情報』では、インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載しています。



### 「合理的配慮」実践事例データベース

#### ▶ 実践事例データベース

実践事例データを 11件 追加しました。  
<実践事例データ 計 472件 公開> (R2.3.31)  
[【事例を閲覧・活用される際の留意事項】](#)  
[【インクルDBリーフレット\(カラー印刷 | 白黒印刷\)】](#)

#### ▶ インクルDBを活用した研修例

インクルDBを活用した研修等を掲載しています。  
ご参考にしてください。

#### ▶ 交流及び共同学習実践事例集

心のバリアフリー学習推進会議の提言に基づき、交流及び共同学習についての事例を掲載しています。

#### ▶ 相談コーナー

インクルーシブ教育システム構築の相談はこちらから  
※教育委員会、各学校からの相談を受け付けております。

### 関連情報

#### ▶ 法令・通知・用語等

法令・施策や関連用語の解説など

#### ▶ Q&A

インクルーシブ教育システム構築に関する保護者向けのQ&Aを設けました

#### ▶ 研究報告・リンク

就学に関する情報、教材に関する情報など

#### ▶ 教育相談に関する情報

教育相談に関する情報など

**学校における遠隔授業や動画配信  
新型コロナウイルス感染症予防の取組**

特別支援学校における遠隔授業や新型コロナウイルス感染症対策の取組例等を掲載しています。

# インクルDB (インクルーシブ教育システム構築支援データベース)



文字の大きさ

表示色の変更

[▶ アクセシビリティツールを起動](#)

[▶ ツールの使い方](#)

[🏠 トップページ](#)

[▶ 実践事例データベース](#)

[▶ 法令・通知等](#)

[▶ Q&A](#)

[▶ 研究報告・リンク](#)

[▶ 教育相談情報](#)

[トップページ](#) > [実践事例データベース \(新\)](#) > [実践事例データベースII](#)

実践事例データベースII

事例タイトル	【6】特別支援学級に在籍するブラダー・ウィリー症候群の小学5年生の児童の学習意欲と自信を高めるための授業における配慮		
事例の概要	<p>A児は、B小学校の知的障害特別支援学級に在籍する、ブラダー・ウィリー症候群の小学5年生の児童である。軽度の知的な遅れの状態と側わん症がみられる。学習面では、絵を描いたり、手紙を書いたりする活動を好む。しかし、活動の見通しを十分にもつことができないときや、急な変更があったときは、活動が停滞することがある。</p> <p>本事例は、A児の学習意欲と自信を高めるための授業における配慮に関するものである。具体的には、生活単元学習の授業を例に授業における配慮を考えた。</p> <p>本事例の成果は、A児が活動に見通しをもって参加し、最後まで主体的に活動を行うことができるようにするために、次のような視点から授業において配慮を行う必要があることが明確になったことである。①活動の順番がわかる手順カードを提示すること、②実際の場に近い疑似体験の場を設定すること、③正しい手順で活動できたかを確認することができる評価方法を設定することである。このような配慮を行うことで、A児は、自分がどのように活動すると良いのかを考え、取り組むことができた。</p>		
在籍状況	小学校 (特別支援学級)	学年	小5
障害種	知的障害		
キーワード	手順カード、疑似体験の場の設定、評価方法の設定、ブラダー・ウィリー症候群		
事例リンク	<a href="#">H27_0396PS5-ID.pdf</a>		

[| 詳細を表示](#)

事例タイトル 【5】特別支援学校（肢体不自由）に在籍する中学3年生の生徒の宿泊学習への参加における合理的配慮